



金融審議会第一部会ご説明資料

格付機関の格付の利用について

～投資家の立場から～

平成 20 年 11 月 19 日
住友生命保険相互会社

参考情報としての位置付け

■投融資の実行にあたってのポイント

- (1) 自ら適正な収益・リスク評価が可能か？
- (2) その継続的なモニタリングは可能か？
- (3) 格付機関の格付は参考情報として使用。

- 独自の審査・独自の判断。
- 格付機関の格付のみで判断することはない。

■投資家にとって格付機関の格付の役割・影響

- (1) 投融資先の信用力判断のための参考情報。
- (2) 価格(調達サイドから見れば、調達コスト)に与える影響。

役割・影響力大

■投融資先の信用力判断のために住友生命では

- (1) 信用リスクを有するすべての投融資先に対し、社内格付を付与。
- (2) 社内の収益評価・リスク管理は全て社内格付ベースで統一。
- (3) 社内格付の精度向上のため格付機関の情報も活用。

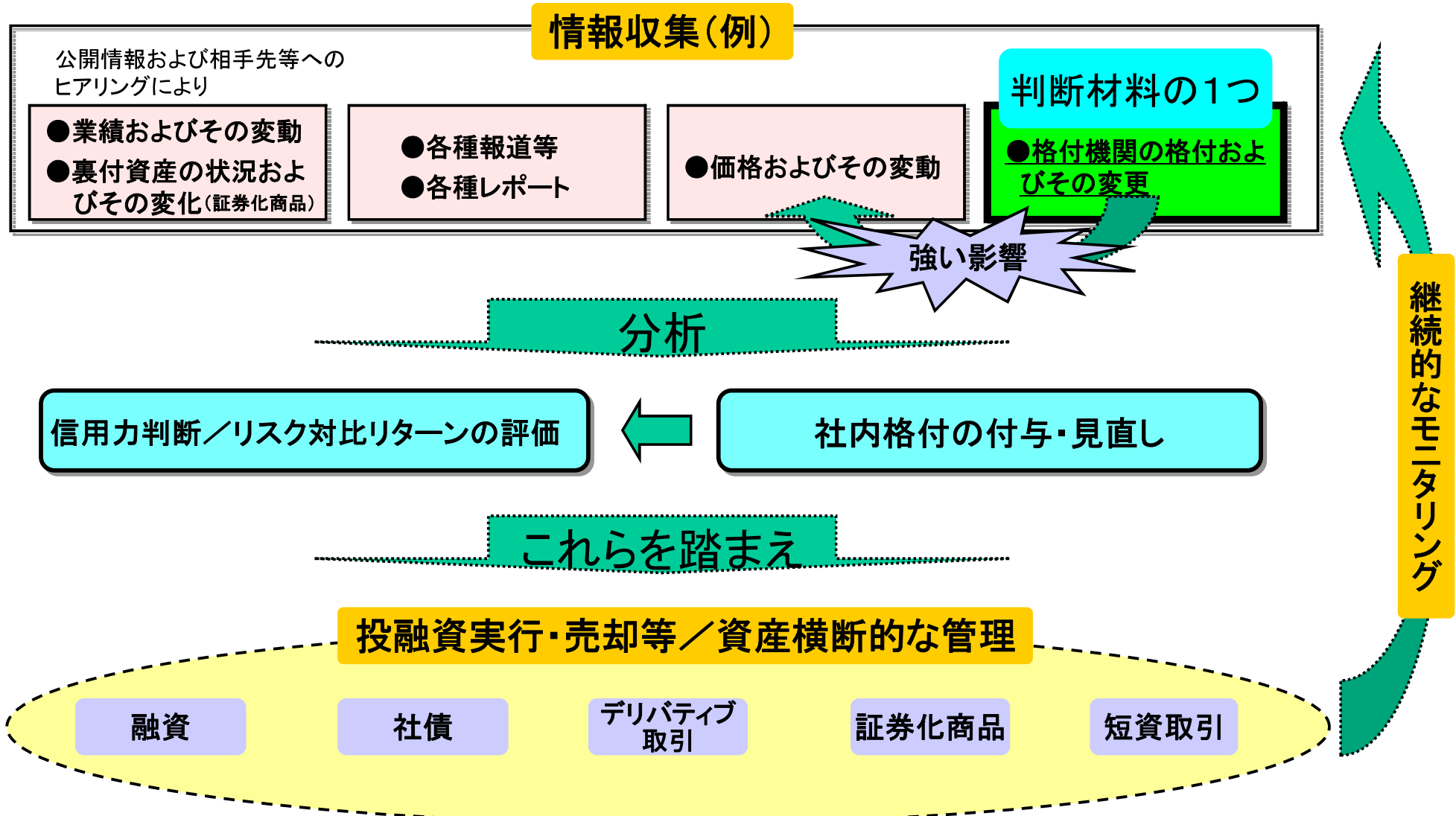
例①: 社内格付の手法策定・高度化のため格付機関の手法・分析等も参考に。

例②: 社内格付と格付機関の格付とが乖離している場合の要因分析。

例③: 累積デフォルト率の比較検証。

投融資に関する判断の流れ

情報収集から方針実行・モニタリング



より一層の信頼性向上を

- 格付機関の格付は、投融資先の信用力を判断するうえで重要な参考情報。
- また、現実問題として、マーケットでは格付機関の格付は価格（調達側にとっては調達コスト）に大きな影響を与えている。
- 格付機関の格付の精度が向上し信頼性が高まることは、市場参加者にとって大きな共通の利益。
- 利益相反防止体制の強化、格付付与の手法・プロセス等の開示の充実を図ることは、信頼性の向上に繋がると考えている。

以上